

会議 議事録

会議名	第14回 JCHO金沢病院 地域連絡協議会		
開催日時	令和4年8月23日(火) 19:00~20:20	開催場所	金沢病院2階 講義室
出席者	高橋健司(石川県健康福祉部医療対策課課長)、小鍛治雅人(金沢市福祉健康局健康政策課課長) 小西正則((蔵局長の代理出席) 金沢市消防局警防課救急救助係長)、安田健二(石川県医師会会長)、鍛治恭介(金沢市医師会会長)、沖野惣一(河北郡市医師会会長)、真田弘美(石川県立看護大学学長)、松野茂夫(諸江地区民生委員児童委員協議会会長) 福島興士(患者代表) 村本弘昭(JCHO金沢病院院長)		
欠席者	なし		

議事内容

1. 開会

(小西事務部長)

※ 配布資料の確認

では、只今より、独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院第14回地域連絡協議会を開催いたします。本日出席いただいております委員の皆様のご紹介をさせていただきます。2枚目の委員名簿の順にご紹介させていただきます。

※ 委員名簿に沿って紹介 挨拶は割愛

本日の協議会は会則に従いまして、村本委員が議長となり進めさせていただきます。

また議事録は後日お送りをさせていただき、確認して頂いた後に HP へ公開させていただきますのでご了承ください。

2. 村本議長挨拶

(村本議長)

本日はご多用のところ、第14回地域連絡協議会にご参加いただき誠にありがとうございます。前回ここにお集まりいただいたのが第10回、令和2年7月7日であり、以後新型コロナウイルス感染拡大のため書面決議のみとして2年ぶりの開催となります。

この協議会は当院の名称、すなわち地域医療機能推進機構とありますように、地域に貢献することが法律上義務付けられており、そのため年に2回、委員の皆様に参加いただいてご意見を伺うこととしています。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 議題 (1) 当院の現況について

(村本議長)

議題の(1)として当院の現況について、引き続き私の方からご報告申し上げます。まずコロナに関することを除きますと、最初にいつも経営状況から始めております。経営に関しては8年半前にJCHOが発足しましたが、それ以前からも良好な経営状況を維持しております。特に当時社会問題化していた社会保険という名前を背負った病院から出発したものですから、前理事長尾身茂先生は、いつもどこからも補助は出ない、それで経営していくと力を込めていました。おかげさまで当院はJCH057病院の中でもトップクラスの

優良病院となっています。私の更なる希望は、金沢大学にもっと働きかけて医師をさらに確保して診療体制を充実させたいと思っています。また、多くの病院では薬剤師や看護師の不足も大きな問題となっており人材の確保を最優先に考えたいと思います。

現在の最大の問題であります新型コロナウイルス感染症についてですが、これは後程詳しくご報告申し上げますが、当院は初期の段階から県や市の要請を受けて、入院、検査、ワクチン接種、さらには他施設のクラスター対策に積極的に関わってきました。特にコロナ専用病棟を作る時や県で最初に職員にワクチン接種を行うときなど、皆から協力を得られるだろうか、と綱渡りの気分でしたが、どこからも全く反対が出なかったことは本当にありがたいことでした。それから、これは自慢するわけでもないのですが、当院はまだ一度もクラスターを出したことがなく、そして外来、救急、病棟を止めたことがありません。偶然なのか、指導が徹底しているのか、何とも言えませんが私としては担当者の苦勞に感謝しているところです。

本部からは、前理事長が尾身さんだったこともあり、もっとコロナに貢献するようとの指示が来ており、最近では国の依頼で沖縄に看護師を派遣したところです。またコロナ病棟への補助金は経営に対しものすごい助けになったのですが、これがなくてもやっていけるよう、いわばポストコロナに向けた気持ちの切り替えも強く言われるようになりました。具体的には当院がこれからも現在の体制、すなわち5病棟のうち急性期4病棟、回復期1病棟を維持していけるよう重症患者や救急患者を積極的に受け入れていく所存です。この活力を維持していけたら、と思います。

以上、簡単ですがご報告申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

この議題1の当院の現況について何かご発言がありましたら、お願ひ致します。

(福島委員)

金沢病院の現況を聞くと総合的に健康的な病院に感じますが、何か課題はありますか。

(村本議長)

組織の中ではいろいろありますが、みんな仲良く元気に前向きに頑張っています。

4. 議題(2) 医療の質の指標

(小西事務部長)

それでは議題2、令和3年度医療の質の指標につきまして、私からご説明申し上げます。

まず、病院全体の診療評価指数についてご説明いたします。

※ 医療の質の指標 資料に沿って説明

(安田委員)

コロナ禍で地域の病院として支え、医師会としても心強く感謝申し上げます。

今年度の診療報酬改定についてですが看護必要度の影響はありましたか。

(村本議長)

看護必要度はポストコロナ(アフターコロナ)と位置づけ、コロナの補助金がなくても病院の運営ができるように、その目玉は看護必要度と考えています。

(田井看護部長)

改定に伴い看護必要度は厳しい状況ですが、職員一丸となり取り組むことで急性期入院基本料1を取得できました。現在は、看護必要度の割合は32%を超えている現状です。これは医局をはじめ看護部、事務部

等の多職種で取り組めた結果になります。

(村本議長)

看護必要度について補足しますと、看護必要度は当院にとっても生命線でこれを落とすと大赤字になり経営に直結する大きな課題でした。病院の質を表す大事な指標になり、維持するために職員全員が頑張りました。

(真田委員)

一般的なクリニカルインディケータの在院日数、離職率、感染（コロナ以外）、褥瘡の発生率等のデータがありませんがいかがでしょうか。

(村本議長)

離職率に関してですが、当院は低いと考えています。看護大学卒業者は定着率が高く辞めていません。コロナ病棟に勤務している看護師は疲れますが、辞めたいといった声は聞いていません。よっぽどの場合は勤務交代など内部で調整して上手くいっています。

褥瘡率ですが横ばいです。

(真田委員)

コロナ禍で看護師がハードワークだったと思います。新人看護師等の心身のケアが必要だと思います。

基本的なクリニカルインディケータが入っていない気がします。そこは必ず入れていただかないと他の病院とのベンチマークができなくなりますので資料の公表をお願いします。特に看護に関して、尿路感染から始まりまして転倒、褥瘡、身体拘束は非常に大きなクリニカルインディケータになりますので情報をお願いします。

(小西事務部長)

今後、そのような資料を取り入れながらご報告させていただきます。

5. 議題 (3) JCHO金沢病院における新型コロナウイルス感染症の対応

(小西事務部長)

続いて議題3、当院における新型コロナウイルス感染症の対応につきまして、私からご報告申し上げます。

※ JCHO金沢病院における新型コロナウイルス感染症の対応 資料に沿って説明

(高橋委員)

JCHO金沢病院におかれましては、院長先生をはじめ職員の皆様に医療提供体制のご協力いただきありがとうございます。令和2年の4月8日からコロナ入院患者の受け入れとありますが、4月に病院をお伺いして専用病床の確保についてお願いしたところ速やかに決断いただきました。その後についても、自院も大変な中、県内クラスター発生時には未知なるウイルスに対して真っ先にICNを何度も派遣いただきました。ワクチン接種、療養ホテルへの支援等でも速やかに協力いただき、今振り返っても感謝しています。現在も引続き頑張っていますが今後もよろしくをお願いします。

(村本議長)

高橋課長のお言葉を職員へ伝えます。

(鍛冶委員)

金沢市医師会からもJCHO金沢病院には感謝と敬意を表したいと思います。コロナ患者においては救

急の輪番病院もされていますが、金沢市医師会としては休日当番医の後方支援病院をお願いしています。後方支援病院も第7波で患者数が増え、本来ならば診療所が発熱の鑑別をして後方支援病院へお願いすることとなっていました。一部においては後方支援病院に直接受診するということがありました。病院との約束は守るよう休日当番医へ案内して徹底し、新しく発熱外来をおこなう医療機関を手上げで募りまして50人近いコロナ疑い患者も休日当番医で診るよう努力していますが、第7波はそれ以上の患者数でありJCHO金沢病院についてはご理解とご協力をよろしくお願いします。

(真田委員)

看護師は非常に疲労しているので第一線で頑張っている看護のプライドとして褒めていただきたいです。

(小鍛治委員)

金沢市の方もコロナの関係で休日当番医等のご協力いただきありがとうございます。

医療の質の指標6頁の説明で、西3病棟の34床をコロナ病棟にしたとなっているが、フェーズ5の30床と違う数字でしょうか。

(村本議長)

西3病棟はもともと許可病床数が34床あり、フェーズに応じて受け入れ患者数が変わります。受け入れ当初は感染防止のため4人部屋を1人で使用しており、感染が拡大したフェーズ5においては最大30床としています。

(松野委員)

コロナ病棟の職員はストレスがありますが心のケアはどのようにしていますか。

(田井部長)

看護師長や副師長が話を聞いてケアをしています。月に1度、外部の臨床心理士にカウンセリングをしています。また、職員のメンタルヘルスケアを実施、メンタルヘルスケアの研修も実施しています。

(村本議長)

院長の役目は職員を褒めちぎることであり、職員は喜んでいて感じています。

(沖野委員)

これだけコロナの患者を診ているのに一般の患者数が減っていない、むしろ救急の患者は増えていて医師は疲弊していないのか心配になります。コロナではない発熱患者や他の重症疾患をきちんと診ていただいたことが大きいと思います。これからもよろしくお願いします。医師も休めていますか。

(村本議長)

仕事の濃淡は特定の個人に集中する部分があるので、世話役の先生が負担を減らす気配りしているので上手くいっていると理解しています。

(小西金沢市消防局警防課救急救助係長)

コロナが蔓延しており救急出動も大変多くなっています。前年の半年で比較すると救急出動で981件増えています。先日から当消防局では救急車を1台増やし11台体制となりましたのでJCHO金沢病院への救急搬送が増えると思いますがよろしくお願いします。

(村本議長)

金沢市の輪番体制に積極的に協力する思いはありますが、断り率はそこそこ高いのも実情です。救急車を続けて3・4台対応すると当院の規模ですと断る場合があることもご理解いただきたいです。

(真田委員)

2024 年度から医師の働き方改革が始まりますがどのような対応を取りますか。国は特定看護師の育成に力を入れていますが何人いますか。タスクシフトは多職種にまたがりますかどのような対策を考えていますか。

(水谷看護副部長)

JCHOは平成 29 年から特定看護師の育成を推進して、当院では現在 6 名が受講しています。JCHO は在宅医療の特定行為を進めてきましたが、令和 5 年度からはクリティカルケア（術中の麻酔管理、術後の管理等）をスタートしていきます。

(真田委員)

地域密着型の病院として訪問看護や医師の少ない医療機関からの受け入れを、特定行為が優れている JCHO 金沢病院としてよろしくお願いします。

(村本議長)

金沢大学関連病院長会議においては、医師の働き方改革で逼迫しているから「医師を派遣して欲しい」という話がよく出ますが大学病院は医師不足で派遣できません。JCHO の新しい山本理事長（千葉大学前院長）は「2024 年度に大学が医師を派遣することを期待するな」「大学も自分のとろろで精一杯だ」と言っています。どうすればいいか、答えはありません、各自衝撃に備えよといったところです。当院もできるだけの対策をしていきたいと思えます。

(村本議長)

今日は、当院に対する厳しい言葉もありましたが、励ましの言葉もいただきどうもありがとうございます。この地域連絡協議会は JCHO 本部から年に 2 回実施することとなっていますが、皆様の多忙さも考え実施形態に関しては皆様の負担にならないよう、いろいろな形でご意見を頂戴できたらと思っています。

今日はこれにて終了とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

今後ともよろしくお願いいたします。